

ワクチン接種と抗体価測定の違い

・ ワクチン接種

・ 意義

1. 予防効果

- ワクチンで予防し得る感染症に対して漏れなく免疫賦活が可能になる。

2. 利便性

- ドッグランやトリミング、ペットホテルなどの施設利用において年1回の接種と証明書の提示を求められることが殆どであり、安心して利用出来る。

・ 注意点

1. 安全性

- 100%安全なワクチンはない。大変まれ（0.01-0.05%）ではあるが、副反応の存在。
- 猫の場合は副反応に加え、接種部位肉腫の可能性がある。

・ 抗体価測定

・ 意義

1. 安全性

- ワクチン接種の間隔を空けることが可能となる。副反応、接種部位肉腫の懸念がその分減る。

・ 注意点

1. コスト

- 費用は抗体価測定>ワクチン接種となることが多い。
- 抗体価が無い場合はワクチン接種が必要となるため、結果によってはコストが余計にかかる事がある。

2. 利便性

- 抗体価測定の証明書は接種証明書とは異なるため、ドッグランやペットホテルなどの施設利用において、抗体陽性であっても認められないことが多いということ。理由は3.参照。

3. 接種間隔の延長に十分な根拠か？

- 現在、抗体価測定で十分とされる感染症は、犬においてはコアワクチン（パルボ・ジステンパー・アデノ）のみである。ノンコアワクチンとされるパラインフルエンザ・コロナ・特にレプトスピラについては1年毎の接種が必要であるため、コアワクチンの抗体陽性=混合ワクチン接種において予防可能な感染症全ての抗体を有すことの証明はならない。これらについての予防も求める場合は抗体価の測定では不十分となる。
- 猫においてはパルボウイルスのみである。より発生率の高いカリシ・ヘルペス（猫カゼの主要因）に関しては抗体の測定は有用では無い。（抗体が無くても抵抗力を保持している事もあり、本当に保持していない場合もある）ガイドラインではカリシ・ヘルペスについては多頭飼育や屋外の行き来がある、ホテル等に預ける事がある場合は年1回の接種が推奨されており、抗体価測定の意義は高くない。

・どちらが良いのか？＝選ぶ基準（当院の見解）

・抗体価測定をお勧めするケース

1. ワクチン接種によって強い副反応の歴がある子
2. 現在、腫瘍性疾患・自己免疫疾患・てんかんの治療中・既往歴がある子
3. 屋内単頭飼育であり、施設利用含めて外には出ない、他の子との接触が無い子

・ワクチン接種をお勧めするケース

1. 多頭飼育、これから迎える予定のあるご家庭の子
2. 猫カゼの既往歴がある子
3. 施設利用が予想されるライフスタイルの子
4. 費用面を重視する場合

・当院の見解（ワクチンの接種間隔について）

- ・ ワクチン接種の間隔を考慮することはとても重要なことであり、不要なワクチンの接種を避ける事は大切だと思います。海外では接種間隔の延長が比較的浸透してきていますが、日本においてそのまま外挿することはリスクがあることだと思います。理由には海外での動物への予防接種の意識に比べ、日本ではまだまだ低く、50%にも満たない事が挙げられます。海外の様にみんなが接種してくれている状況では感染症罹患リスクは低いので、3年に1回をベースとしたワクチン接種が良いと思いますが、日本ではそのレベルには遠く達していないため、どちらかと言えば、**外出の可能性が有り、かつ予防できるコンディションの子は毎年しっかりとして頂いた方が良いと考えます。**
- ・ **当院ではホテルやトリミング等でのお預かりをする場合は原則1年以内のワクチン接種をお願いしています。** 病院ですので、病気で予防がしたくても出来ない子、感染症の子も来院します。予防接種をして頂くことは、自分たちだけでなく、その子達を守るためにも繋がります。
- ・ 当院でも抗体価測定の結果で対応するケースもありますが、個別に診察をさせて頂き、既往歴や健康面などを考慮した上で判断・対応をさせていただいております。
- ・ それぞれにメリット・デメリットや制限があります。安易に高齢だから、危ないからでの接種回避は良くないと思います。反面、言われるがままに接種をしていくのも同様です。正しく理解し、正しく恐れるという事がワクチン接種には大切だと考えています。**ご不明な点は遠慮なく、診察の中でご相談下さい。**